

# 堂谷津の里 自然だより 2025年 2月

2025. 2. 25

暖かな日、寒い日を繰り返しながら春へ向かっています。ようやくニホンアカガエルが山から下りてきて、産卵が始まりました。今年は気温が低く、産卵が遅れています。この先、暖かくなってたくさん産んでくれるでしょうか。田んぼの水も少なく、アカガエルには厳しい今年の冬です。

## 水辺で春さがし！



## 道ばたで春さがし！



### <季節メモ>

### 生物季節～生きものが告げる四季の変化～

25日の作業日、ウグイスの初鳴きを聞きました。寒さが厳しい2月でしたがようやく春が・・・と思いきや鳥は春（季節）の訪れを気温でなく日長で知ることから寒さが和らいだということではないのです。それでも「春告鳥」と言われるのは、日が長くなり季節が春に向かっているからでしょう。

私たちは、春になれば桜が咲いて虫たちが活動を始め、ツバメが初夏の訪れを知らせるように生きものの変化から季節の変化を感じています。このように生物が持つ季節的な活動の変化を「生物季節」と言います。ウメや桜の開花・満開、イロハカエデの紅葉などです。

近年、この生物季節に変化が起きています。地球温暖化の影響が一部に表れはじめているともいわれます。すべての生きものが同じように変化するのではなく、変化しているもの、変化していないものがいれば、えさ生物の間で季節的なズレが生じます。

春咲き植物の開花日と花粉を運ぶマルハナバチの出現日が一致しなくなり、受粉に影響が出ることや植物の開花がずれてミツバチの活動が鈍くなり、ハチミツの収量が減少していることなど。

地球温暖化の影響は、春を象徴する桜の開花の変化など、目に見えるところにも表れています。



入学式の花から  
卒業式の花へ！



写真・編集：晝間